

ウツボグサ

学名：*Prunella vulgaris* Linné var. *lilacina* Nakai

科名：シソ科

属名：ウツボグサ属

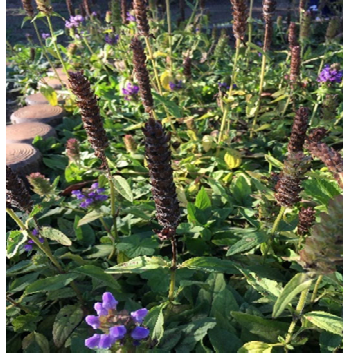
対生した葉、唇形花、四角い茎
はシソ科の特徴である

↓麦穂状の花穂

写真：東京理科大学薬草園



↑紫色の唇形花
上唇は帽子のような形、下唇は
3つに裂ける



↑葉は対生、卵状楕円形
の鋸歯縁



↑四角い茎
茎・葉に白色細毛を密生

生薬：カゴソウ(夏枯草)

薬用部分：花穂

成分：rosmarinic acid、ursolic acid、oleanolic acid、betulinic acid、rutin、hyperin など

用途：利尿消炎薬として、腎臓炎、膀胱炎、口内炎、結膜炎などに用いられる。

ウツボグサの名は、花穂の形が弓矢を束ねて入れる漆塗りの鞆(うつぼ)に似ていることに由来する。漢名は夏に枯れることから夏枯草(カゴソウ)という。中国最古の医学書「神農本草経」にも夏枯草の名で記載されており、非常に古い生薬といえる。徳川光圀が穂積甫庵にまとめさせた「救民妙薬」(1693)にも「夏枯草、うつぼ草ともいう」と書かれている。

夏に花穂が褐色になりかけのころ地上部を採取して日干ししたものが生薬カゴソウである。

タテヤマウツボグサ



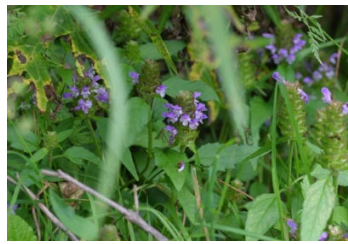
本州中部以北の亜高山、高山地域の草原などに自生する日本固有種。

ウツボグサより葉は幅広い。

花は濃赤紫色でウツボグサより濃く大きい。

上下からつぶしたような花穂。

ミヤマウツボグサ



北海道・本州北部の亜高山帯に自生するウツボグサの変種。

ウツボグサより草丈が低い。

葉に粗い鋸歯がある。

タテヤマウツボグサ・ミヤマウツボグサは薬用としては用いない。

セイヨウウツボグサ



ヨーロッパ、アジア、中国の温帯や亜高山帯に分布するウツボグサの準亜変種。

ウツボグサより草丈が低く花穂も短い。

花はやや小さく、葉はやや細い。

セルフヒールというハーブとして利用。

参考文献

みんなの趣味の園芸 https://www.shuminoengei.jp/m-pc/a-page_p_detail/target_plant_code-842

薬用植物学